



自販機



業界トップシェアに裏打ちされた高い技術力と蓄積したノウハウを活かして、省エネ型の製品の開発を推進し、社会に貢献できる高付加価値の製品を提供しています。

また、国内市場の縮小が進む中、市場規模に応じた事業体制を構築し、安定した収益を上げることのできる事業への変革を図るとともに、需要拡大が見込まれる海外市場への展開を加速していきます。

(単位:億円)

| | 2009年度 | 2010年度 | 2011年度(予想) |
|------|--------|--------|------------|
| 売上高 | 914 | 858 | 790 |
| 営業利益 | -8 | 4 | 14 |

2010年度の業績概況

自販機・フード機器分野では、夏場の猛暑の影響により一時的な物量増加はあったものの、消費低迷による飲料食品メーカーの投資抑制や価格競争の激化、および東日本大震災の影響による物量減少の結果、売上高・営業損益ともに前期を下回りました。

通貨機器分野では、流通向け自動つり銭機において小売チェーンを中心とした店舗への導入が増加したこと、および固定費削減効果により、売上高、営業損益ともに前期を上回りました。

また、事業構造改革として、経営意思決定のスピードアップを図るべく本社機能を生産拠点内に統合しました。

2011年度の市場環境

飲料自販機の国内市場は、人口減少によって縮小傾向にあり、震災の影響によってさらなる縮小が予想されます。一方、震災発生後のニーズの変化として、さらなる省エネ化に対応した環境対応型自販機や、緊急時の飲料提供を可能とした災害対応型自販機などの需要が高まるものと見込んでいます。

通貨機器においては、引き続き厳しい市場環境が予想されますが、そうした中でも、レジ対応に関わるコスト削減と効率化、セ

キュリティ対策などのニーズが高まり、店舗などにおける自動つり銭機の採用は広がるものと予想しています。

2011年度の方針・戦略

自販機・フード機器分野では、震災により大きく変化した市場環境に対応するため、一層の省エネ化を図った環境対応型自販機の開発を推進します。また、蓄電池の搭載により停電下でも飲料を提供できる自販機など、高付加価値機能を有した社会貢献型自販機の拡充を図ります。

自販機の生産拠点を三重工場、埼玉工場の2拠点から三重工場の1拠点に集約するほか、高効率の新生産ラインを稼働し原価低減を図り、昨年度から進めてきた事業構造改革を完遂することで、効率的な事業運営体制を実現するとともに、収益性の向上を図ります。また、海外市場では、需要拡大が見込まれる中国での市場開拓を進めていきます。

通貨機器分野では、自動つり銭機などの金銭機器を中心とした成長分野へ経営資源を投資し、店舗での現金管理のさらなる効率化に貢献する商品を開発・提案していきます。